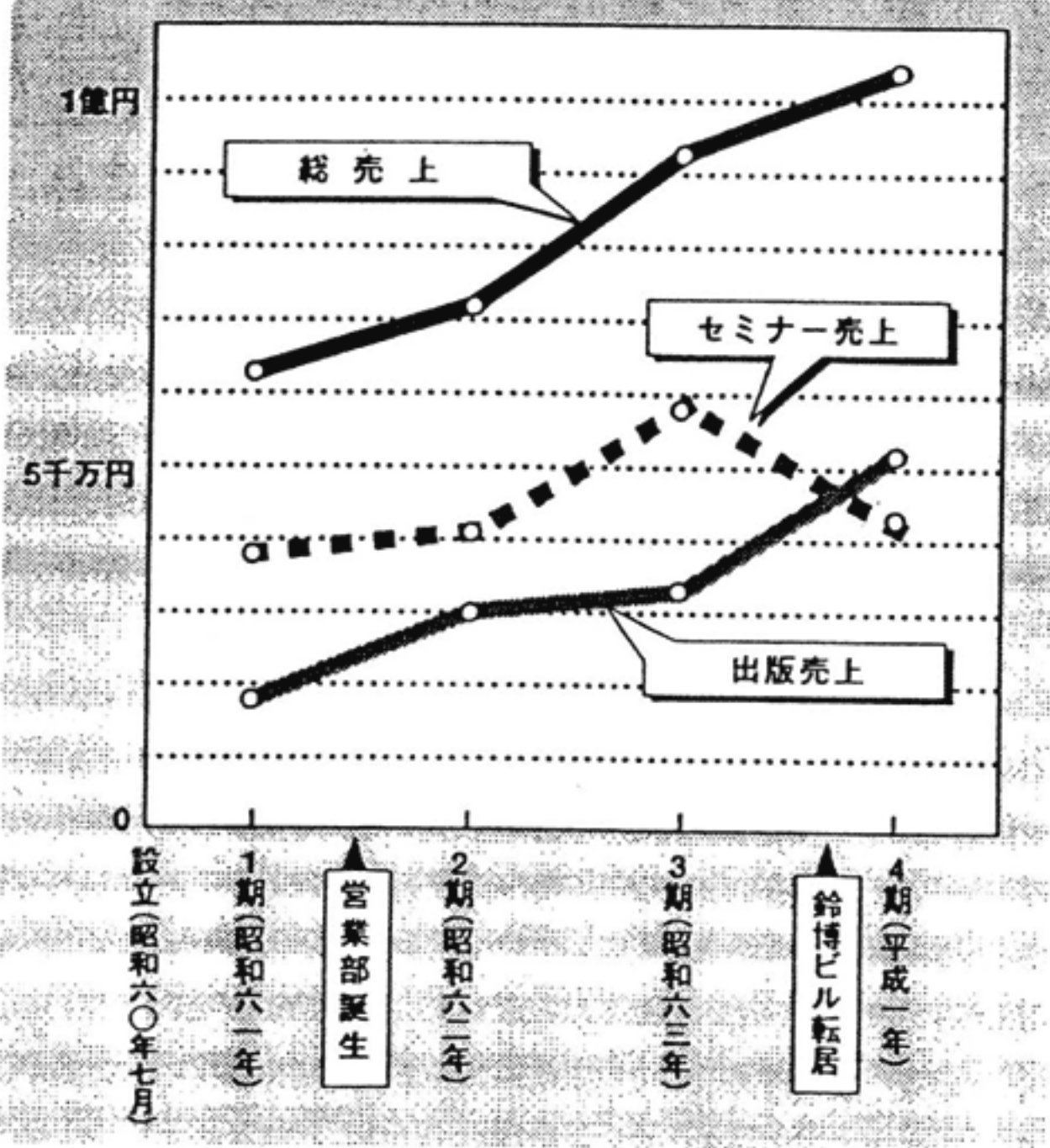


二、情報出版企業として

②マンション時代

平成元年三月、三年半ほど過ぎた盛和ビルを後にした。新事務所は東大赤門近くのメゾン鈴博ビル六階に構えた。本郷三丁目から東大農学部にかけての本郷通り沿いは老舗が軒を連ね、私がこの地に足を踏み入れた昭和五十三年当時でもまだ歴史を感じさせる町並みを保っていたが、やがて始まるバブル期の都市開発の波を受け、次々とノッポビルに建て変わっていた。鈴博ビルもそんな老舗のテラーが衣替えした真新しいビルの一つだった。ご主人とは旧店舗時代からの馴染みだった縁で、事務所の相談に立ち寄ったところ自分の物件を薦められたわけだった。とは言っても、事務所用途は二階だけで、三階より上は住居用のマンションだったのである。二階は本郷通りに堂々と迫り出す四十坪の立派なオフィスでとても手の出る代物ではなかった。當時は更に三年後にそこを借りることになるとは及びもつかなかった。マンションは盛和ビルの前に創業時代を過ごした文京センタービルで経験済みである。所帯じみて抵抗があったのは事実だが、文京センタービルと異なり新築で明るく、何より地の利が良いのが気に入った。その六〇二号室は2DKの七坪で盛和ビルと同じ広さである。六〇一号室は1DKの約五、五坪で合わせると十二、五坪、こんなにいらなないと思っただが結局二部屋借りることにした。家賃がそれまでの月九万円から三十三万円へと跳



ね上がるというところで迷いもしたが、何とかなると思いついて決めたのである。いざ事務所を構えようと、トイレも風呂も台所も二つずつなので有効なスペースは決して広くはなかった。およそ一年後の平成二年一月には、更に五〇二号室を借り三部屋体制となり、家賃は五十万円を超えた。こうした発展の原動力となったのは書籍の電話営業の拡充であったが、実は売上はまだセミナーと拮抗していた。第三期(昭和六十二年七月〜六十三年六月)の売上九千三百万円の内訳は出版売上約三千三百万円に対し、受講料収入約五千八百万円である。第四期(昭和六十三年七月〜平成元年六月)半ばで鈴博ビルに転居したわけだが、初めて売上が一億円を超えた当時の売上一億四百万円の内訳は出版売上約五千二百万円に対し、受講料収入約四千三百万円となり、出版とセミナーの売上は初めて逆転した。ちなみに、第一期の売上は六千三百万

円、内訳は出版売上約一千八百万円、受講料収入約三千八百万円、第二期は同七千二百百万円で出版売上約三千万円、受講料収入約四千百万円であった。もっとも、第三期の受講料収入五千八百万円の内、二千万円は「日米高温超電導シンポジウム」一本の売上なのでNTSのセミナー事業は、企画マナー一人当り(つまり私一人)大体四千万円程度のビジネスだったということになるだろう。逆転されたとはいえ、総売上の約四割を占めるセミナー事業の存在は大きい。そして、そのことが、結果として会社の成長の足枷になっていた面があったと、後々になって考えることになった。当時必要なことは、書籍の電話営業という新事業に全力を投入することであったのかも知れない。電話営業の体制作りと本作りの両面において、戦略的な事業展開が求められていたのだから、売上維持のためセミナー事業の手を抜くことはできなかった。それに、「日米高温超電導シンポジウム」(昭和六十二年十月)の大成功で、過去十年の蓄積に加え、国際シンポという新商品が定着しつつあり(二カ月後には、「超臨界ガス抽出技術国際シンポジウム」を開催)企画屋としてまさに脂がのり切っているという実感があった。だが、出版は商品さえあれば営業活動を通じて売上は上がるが、セミナーは私の動き一つで売上が左右される。畢竟、セミナーに力が入った。出版の企画はセミナー活動の中で副次的に生まれはしても、出版独自の活動はほとんど行っていな

かったのが実情である。今にして思えば、私自身の内に黙っていても営業が売ってくれるのだという甘えがあったのかも知れない。その上、「超電導シンポ」の成功でこれまでとは異質な世界との接点が生まれた。それは、バブルに沸く日本経済の中で大きく開花した「イベント」という、魅力はあるが関わり様によって毒にもなる、同時代の光の部分の演出するビジネスの世界であった。

掲示板

今月の人事
 七月三十一日付退社 営業部
 八月一日付入社 編集企画部
 八月一日付入社 科学技術情報部
 社内清掃について
 次の日程で、本社事務所内の床掃除を行いますので、宜しくお願い致します。当日休日出勤の予定がある場合は作業に支障がありますので、必ず総務部に連絡して下さい。
 八月二十二日(日)
 九月二十六日(日)

先日、広島出張の為、止むなく人生で五回目のフライトとあいなした。機中では、「飛行機の死亡事故率は、電車よりも低いんだ」をフツツツと呪文のように唱えていた。誰か高所恐怖症を克服する方法を知っていたら是非教えて下さい。待ってます。(伊)

NTSニュース一九九九年八月号(通巻十四号)
 一九九九年八月二十五日発行